

本のリスクに対するヘッジとして考え、ツアーに参加しました。周りはみな初対面の方で、だいたい十人くらいだったでしょうか。企業の経営者や、保険の個人代理店をやっている方が一緒でした。

飛行機でマカオに入り、迎えるバスに乗って宿泊先のホテルから珠海入国ゲートを通り中国に入りました。

最初はお試しで、とりあえず口座だけ開設する予定だったので、持って行ったのは数万円だけ。銀行は混雑していて、五十〜六十人

くらいの人が順番待ちをしている中、我々ツアー客はVIPルームに通されました。赤い絨毯が敷いてあり

ましたが、ソファやテーブルはチープでしたね(笑)。開設手続きはパスポートと運転免許の提示だけで一時間ほど。あつという

間に終わりました」

今、海外で口座を開設するのは本当に簡単だという。前出の小川氏も、先日韓国の銀行で口座を開いた。

「以前は韓国の住所が必要だったんですが、今は旅行

客でもパスポートだけで口座を作れます。私は企業銀行という金融機関で一年定期を組みました。金利は四・三%です。二百万ウォン(日本円で約十四万円)ほど預けてきました」

同じキャピタルフライトでも、「リタイア後の生活」を具体的に意識したこんなケースもある。

中堅食品スーパーに勤務する五十代のA氏は、友人たちとタイへ旅行に行った際、バーツの定期預金を組んだ。

「〇七年は一万円が約二千七百バーツだったのに、円高の今は四千バーツになります。フライトが六時間と近いタイにはよく遊びに行

口座を持つなら語学が必須

一方、キャピタルフライトに否定的な意見もある。前出の永濱氏が指摘する。

「今後キャピタルフライトがさらに拡大した場合に懸念されるのは、日本国債の暴落と金利上昇です。

国内銀行に預金している人たちがドンドン預金を引

くし、日本で定期に預けても低金利で意味がない。

だったらいつそタイで定期預金にしようかと。タイの定期預金の期間は少し変則で、十一月とか十四カ

月です。金利は最初低くて、満期になる最後の二カ月くらいが急に高くなる、「ステップアップ方式」というもので、平均すると約四%くらいです。

僕も以前は投資なんてやったことがなく、外貨預金と聞いても、ピンと来ませんでした。でも大震災の後

で少し考えが変わって、将来は日本以外に住むことも視野に入っています。そのためにも、バーツで資産を守れば安心です」

という皮肉な現象が起こりかねないのです」

ファイナンシャルプランナーの深野康彦氏は、キャピタルフライトという考え方自体にそれほど意味がないと言

う。「今より円安になれば、保有する外貨の価値は高まるでしょうが、仮に日本が破綻したら円の価値は大きく下がる。例えばコーヒー一

杯が三千円になってしまったら、外貨の価値が上がったとしてもどれだけ資産防衛として役立つか。

一つだけメリットがあるとしたら、円に戻さず、預けた通貨をその国で使う場合。つまり通貨だけでなく、『生活もフライト』する必要がありません」

ただ、逃がした資産を元に海外で生活をすると言っても簡単ではない。公認会計士の植松亮氏が「落とし穴」を指摘する。

「最近、海外資産を持つことがリスクヘッジになると考えて、コンドミニアムなどの不動産を買う人も多

いんです。でも海外では物件の購入自体はイージーです

が、名義変更などの諸手続きが煩雑。海外の会計事務所や法律事務所は手数料が高く、一千万円の物件に対して手数料が数百万円ということもザラです。

親が海外物件を持っている場合、相続税が日本と現地で二重に課せられることもあり、海外で保全したつ

もりの資産が、いつの間にか目減りしていることも珍しくありません」

最後に、忘れてはならない基本中の基本をズバリ指摘するのは、ジャーナリストの武田タクミ氏だ。

「海外金融機関に口座を持つなら、語学力が必須です。あまり知られていませんが、海外では一定期間取引がない口座は凍結されま

す。このとき、凍結解除を求める電話ができないとアウトです。銀行によっては通訳が使えないこともあり

ます。私も銀行窓口に通訳を同行しましたが、個人情報保護を楯に通訳が認められませんでした」

簡単なようで奥が深い資産フライト。あなたは資産を海外に逃がしますか。